

だい1かい いじん いけん
第1回の委員の意見をまとめています。

しりょう
資料2

だい1かい
第1回

かしょう
(仮称) い し そつうじょうれいけんとうぶかい
意思疎通条例検討部会

ごいけん
ご意見まとめ

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

しゅわげんごじょうれいせいてい く ようぼう くに ようぼう だして ほう まって
○手話言語条例制定を区に要望してきた。国にも要望を出しているが法を待ってられない
おもい かくちいき じょうれいか うごき ねりまく ようぼう だし
という思いから、各地域で条例化してほしいという動きがあり、練馬区にも要望を出している
けいい りかい
経緯を理解してほしい。

じゅうしょうしんしんしょうがい みずからはなす こんなん したい ふじゆう ゆびさし
○重症心身障害(※1)は、自ら話すことが困難。肢体の不自由さもあるので指差しも
むずかしい つかって こたえ
難しい。コミュニケーションボードを使って、「はい/いいえ」で答えられるようにしたり、ボ
とれる しせんにゆうりよく
ードでなくタブレットでコミュニケーションが取れるアプリもある。視線入力(※2)などの
ぎじゆつ すすんで ひとり あいしーていー つかえない ほんにん ほごしゃ
技術も進んでいる。一人では、そうした I C T のツールを使えないので、本人や保護者にそ
あいしーていー しえん ひと いしそつう はば ひろがる おもう
うした I C T の支援をしてくれる人がいれば、意思疎通の幅が広がると思う。タブレットな
つかい ひと おおい
どは、使いこなせていない人が多い。

じゅうしょうしんしんしょうがい じゅうど したいふじゆう じゅうど ちてきしょうがい じゅうふく かさなあって じょうたい
※ 1 重症心身障害：重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した(重なっている)状態

しせんにゆうりよく しせん め うごき そうさ
※ 2 視線入力：視線(目の動き)を使って、パソコンのマウスなどを操作すること

だい1かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第1回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○日常生活では、会話をしなければならない場面がたくさんあるが、苦勞することが多い。外見から見えない障害だから、苦勞することが多いのかなと思う。耳マーク(※3)シールなど自分の障害を知らせやすくする方法をもっと普及してほしい。耳マークは、病院で取りくまれているが、スーパーマーケットなどでも取り組んでほしい。

○スーパーマーケットなどでタッチパネルで支払いが可能なところが増えている。声でのやり取りを必要としないので助かっている。いろいろな方法が選べる環境があればいいと思う。

※3 耳マーク：聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク。



みみ
耳マーク

(全日本難聴者・中途失聴者団体連合会HPより)

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん
第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○自分で自分の障害を伝えるようにしている。スーパーなどでも私自身は、「このように対応して
ください」と伝えている。でも、それを受け入れてくれる社会になっていないと思う。理解者が
増えてほしい、手話通訳者が増えてほしいと思うが、どこにでも手話通訳者がいるわけでない。
スーパーなどでは、筆談で対応してくれる場合もある。

○会社などでは、コミュニケーションの輪に入れないと感じる。手話でのコミュニケーションがで
きないので、輪に入れられないことがある。どの障害でもそうだと思う。

だい1かい かしょう いしそつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第1回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○健康診断や特別支援金など申し込み方法が複雑で分からないことがある。書類の記入例や絵を使った説明書、動画で手続きの仕方を知らせてくれたらいい。一緒に手続きを考えてくれる人がいるとよい。

○お店で、うまく言葉で伝えられず困った。文字でなく具体的に内容が分かる道具があるといいと思う。例えば、コンビニで「温める/温めない」のカードがあって、指差しできたり、飲み物の大きさ(SとかMとか)を写真や実物で教えてくれたりなど。飲食店で、割り勘したかったけど、一人いくらか分からず、うまくできなかつたとき、レジで障害者手帳を見せたら、割り勘の計算をしてくれたことがあった。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条 例 検討部会のご意見

- 計算^{けいさん}など少し^{すこし}できることがあると、「こっちもできるでしょ」と勘違い^{かんちがい}されてしまうことがあり、
十分^{じゅうぶん}支援^{しえん}を受け^うられないと感^{かん}じること^じがある。
- タッチパネルは、視覚障^{しかくしょうがい}害者^{がいしゃ}にとっては難^{むずかしい}しい。最近^{さいきん}は、スマホを使^{つか}って色^{いろ}を認^{にん}識^{しき}するアプリ
で、靴下^{くつした}の色^{いろ}を間^{まち}違^がい^いないようにし^またりする^がなど、活^{かつ}用^{よう}でき^てい^る人^もい^ると聞^きく。でもスマホ
などが苦^に手^がな人^もい^て、うま^く活^{かつ}用^{よう}でき^ない人^もい^る。
- スーパ^ーでは、案^{あん}内^{ない}係^がい^ること^もあ^るが、小^ちさい店^いなどだ^と、そ^うい^った人^がお^らず、自^じ分^{ぶん}で
触^ふれ^られ^ない^し商^{しょう}品^{ひん}が分^わか^らず、少^すし迷^め惑^わが^られ^たり^もす^る。コ^こロ^な禍^かでは、間^{かん}隔^{かく}を^あけ^てレ^ジに
並^{なら}ぶ^も分^わか^らな^かつ^たり^する。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○^{おなじしょうがいしゅべつ}同じ^{ひと}障害種別^{ひとり}でも、人^{ちがうん}によって一人ひとり^{りかい}違うんだ^{おも}ということ^{おも}を理解^{おも}してもらいたい^{おも}と思う。

^{しょうがい}障害^{ひと}のない人^{いしき}たちがそのことを意識^{おも}してもらいたい。

○^{こえかけ}声掛け^{りかい}によって理解^{ひつよう}することは、これから^{おも}も必要^{きかい}だ^{おも}と思う。機械^{きんじよ}だけ^{おも}じゃなく^{おも}て、近所^{おも}のおばさ

^{こえ}んに声^かを掛^{けたら}けたら、「それ^{ちがう}違うよ」と教^{おしえて}えてくれる^{きがる}など、そ^{とり}うい^{よのなか}う気^{よのなか}軽^{よのなか}なやり^{よのなか}取り^{よのなか}がある^{よのなか}世^{よのなか}の中^{よのなか}に
な^{よのなか}って^{よのなか}ほ^{よのなか}しい。

○^{ことば}言葉^{かた}でコ^{いし}ミュ^{とる}ニ^{なやましく}ケー^{なやましく}ション^{なやましく}をと^{なやましく}れ^{なやましく}ない^{なやましく}方^{なやましく}の^{なやましく}意^{なやましく}思^{なやましく}を^{なやましく}ど^{なやましく}の^{なやましく}よ^{なやましく}う^{なやましく}に^{なやましく}く^{なやましく}み^{なやましく}取^{なやましく}る^{なやましく}の^{なやましく}か^{なやましく}と^{なやましく}い^{なやましく}う^{なやましく}の^{なやましく}は^{なやましく}悩^{なやましく}ま^{なやましく}し^{なやましく}く^{なやましく}、

^{かだい}課題^{おも}と^{おも}思^{おも}っ^{おも}て^{おも}い^{おも}る。親^{おも}が^{おも}決^{おも}め^{おも}て^{おも}し^{おも}ま^{おも}っ^{おも}て^{おも}い^{おも}る^{おも}こ^{おも}と^{おも}も^{おも}あ^{おも}る^{おも}と^{おも}思^{おも}う^{おも}が、本^{おも}人^{おも}の^{おも}意^{おも}思^{おも}を^{おも}大^{おも}事^{おも}に^{おも}し^{おも}た^{おも}い^{おも}。

^{ことば}言葉^はを^は発^はす^はる^はこ^はが^はで^はき^はて^はも、す^はべ^はて^は理^は解^はし^はて^はい^はる^はと^はは^は限^はら^はな^はい^は。

^{ことば}言葉^はを^は発^はす^はる^はこ^はが^はで^はき^はて^はも、す^はべ^はて^は理^は解^はし^はて^はい^はる^はと^はは^は限^はら^はな^はい^は。

^{ことば}言葉^はを^は発^はす^はる^はこ^はが^はで^はき^はて^はも、す^はべ^はて^は理^は解^はし^はて^はい^はる^はと^はは^は限^はら^はな^はい^は。

^{ことば}言葉^はを^は発^はす^はる^はこ^はが^はで^はき^はて^はも、す^はべ^はて^は理^は解^はし^はて^はい^はる^はと^はは^は限^はら^はな^はい^は。

だい1かい かしょう いし そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第1回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○パンフレットが^{わ かり}分かりにくいということは、^{ばんさくせい}わかりやすい版作成ガイドラインがあるので、^{さんこう}それを参考にしてもらえば^{すこしかいぜん}少し改善させられるのではないかと思う。

○コミュニケーションをとるときには、^{てきせつ}適切な^{ことば}言葉が^{えらべて}選んでいるのか、^{いわれた}言われたことにきちんと^{こたえ}答えられているか、^{ことば}言葉の^{しんぱい}キャッチボールが^{じぶん}できているか心配になる。たまに、^{はなして}自分のことば^{とく}ばかり話してしまう。特に、^{でんわ}電話は^{あいて}相手の^{かお}顔が^{わ かり ない}分からないので^{むずかしい}難しい。^{たいめん}対面で^{あいて}相手の^{かお}顔が^{み え た ほう}見えた方が^{はなし}話しやすい。

○^{そうだん}相談したときに、^{はなし}話を^{いわれ}まとめてほしいと言われて、^{こまった}うまく^{はなし}まとめられなくて^{ながい}困った。話が長いからと言ってくる人は、^{いって}話が^{ひと}聞きたくない人だ^{はなし}と思うから、^{きき}話を^{ひと}聞きたい人が^{おも}相談員になった^{おもった}らいいと思った。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○^{しゅうろう}就^{らう}労^{について}についての^{そうだん}相談^ををする^{とき}とき^やや^{かいしゃ}会社^{では}では、^{いいたい}言^{いたい}たい^{こと}ことを^{がまん}我慢^{して}してしまう^{こと}ことがある。

○^{そうだんいん}相談員^にに「^{もし}もし^{何か}何か^{あったら}あったら^{いって}いって^ねね」と^{いわれ}いわれ^{ても}ても、^{そうだん}相談^{できない}できない^{こと}ことが多い。^{おおい}サービス^{提供}提供
^{けいやくじ}の^{めんだん}契約^時時、^{おおい}面談^{してもらう}してもらう^{こと}が多いが、^{じかん}時間^をを^{じゅうぶん}十分^とと^{って}もらって、^{あんしん}安心^{して}して^{はなせる}話せる^{よう}ようにし
てほしい。

○^{せいしんしょうがい}精神障害^{の方も}の方も^{個別性}個別性^{が高い}が高い。人^{との}との^{つきあいかた}付き合い^方方など、^{たいじん}対人^{コミュニケーション}コミュニケーション^がが^{にがて}苦手^なな^{ひと}人もい
る。^{はったつしょうがい}発達障害^{の方は}の方は、^{かた}コミュニケーション^がが^{うまく}うまく^{できない}できない^{こと}もある。^{しょうかい}紹介^のの^{あった}あった^{コミュ}コミュ
ニケーション^{ボード}ボード^{などを}などを^{つかって}使って、^{ばめん}いろいろな^{場面}場面で、^{やりとり}やり取り^{ができる}ができる^{よう}ようにな^{れば}れば^{いい}いと
^{おもった}思った。